

令和8年第3回（6月）筑紫野市議会
地域公共交通に関する特別委員会

○日 時

令和8年6月11日（木）午後1時00分

○場 所

第2委員会室

○出席委員（9名）

委員長 八 尋 一 男

副委員長 吉 村 陽 一

委員 上 村 和 男

委員 赤 司 泰 一

委員 西 村 和 子

委員 山 本 加奈子

委員 城 健 二

委員 古 賀 新 悟

委員 檜 木 孝 一

○欠席委員（1名）

委員 佐々木 忠 孝

○傍聴議員（2名）

議員 辻 本 美恵子

議員 段 下 季一郎

○出席説明員（0名）

○出席事務局職員（3名）

局長 杉 村 真 子

課 長 高 木 美智子

主 査 森 敬

開会 午後1時00分

○委員長（八尋一男君） 皆様、こんにちは。お疲れさまでございます。定刻になりましたので、地域公共交通に関する特別委員会を開催いたします。

まず、傍聴の件を御報告いたします。

本特別委員会に2名の議員が傍聴に出席しておりますので報告をしておきます。

それから、委員であります佐々木委員については、家庭の御都合によって今日は欠席というようなことでございます。分かっていることだけ言いますと、お母さんが倒れられて、CTを撮った結果、何も異常はないということで、あと、その後の処置があるらしくて、今回は欠席をしますということでございます。

それでは、会議に入ります前に念のため申し上げますが、会議中、発言のある方は挙手をしていただき、委員長から指名を受けた後に、マイクのスイッチを押して発言していただきますようお願いいたします。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切るかマナーモードをお願いいたします。

それでは、お手元に配付しておりますレジュメに従い、本日の会議を進めます。

まず、費用対効果検証の件でございますが、森さん、送ってもらえますか。

○議会事務局主査（森 敬君） はい。

○委員長（八尋一男君） これにつきましてはですね、別にこれを見てどうのこうのということではありません。ただ、コミュニティバス、御笠自治会バス、のるーと、福祉バスの費用がどのくらいかかっているかという形を皆さんに認識をまずはしてほしいなと。これが高いから、のるーとはやめた方がいい、このバスはやめた方がいいということになりますと、市民サービスに問題が出てこようかと思いますので、まずは、そういう形で認識をしてほしいと思います。

ただ、執行部としての目的は、コミュニティバスですと、令和10年度目標は、例えば、1人当たり369円とかいう目標でございますから、そういうことは頭の中に入れながら見とってほしいなというような形でございます。その形で認識をお願いしたいと思います。これについて何か御質問はございますか。

上村委員。

○委員（上村和男君） 以前、こういう効果みたいなことに「あんまりなじまないですね」と言ったことがあるので、同じようにそういう意味も含まれてると思います。

○委員長（八尋一男君） そのとおりでございます。

○委員（上村和男君） 了解します。

○委員長（八尋一男君） はい。そのとおりでございます。

それでは、2番目の議題、第1回委員会の皆様の御意見を受けて、そして事務局で取りまとめをしていただいております。次の資料に行ってください。これについて事務局から説明をお願いします。

森さん。

○議会事務局主査（森 敬君） 第1回の委員会、5月25日の委員会のまとめということで、1ページのほうに挙げさせてもらってます。

まず、主題としては、令和8年度の公共交通の政策検討スケジュールについてということでしたが、前段に、公共交通計画策定後の公共交通政策の経過についてということで執行部のほうから説明があっております。

概要としましては、令和6年3月、ここに書いてありますように、筑紫野市地域公共交通計画を策定して、その後、西鉄のほうからバス路線の廃止、または一部区間の廃止の申出があったというような報告があってます。対象区間はそこに記載のとおりでございます。

エリア別の取組といたしまして、山口エリアについては、令和7年3月末に、二日市線の路線廃止に間に合うように、令和7年1月からデマンド交通の運行を開始した。それから、山家・筑紫・筑紫南エリアにつきましては、令和8年3月、上西山線、筑紫野線廃止に間に合うよう、令和8年1月からデマンド交通の運行を開始した。それから、二日市エリアにつきましては、令和7年4月から南ヶ丘線の一部区間廃止・減便、令和7年10月から湯町循環線一部区間廃止・減便。9時台から14時台までの6時間にわたって、平日から土日祝日とも運行していない時間があるので、早急な対策が必要だというふうに執行部は考えているという説明がありました。

本題の検討スケジュールについてですが、6月に地域公共交通会議に令和8年度の取組内容を報告し、合意形成を図るということで、内容については、その後に記載してあるとおりでございます。それと、2点目が運転免許返納者へのさらなる支援策の検討、3点目にA I デマンド交通の運行エリア、ミーティングポイントの妥当性の検証ということで執行部のほうから説明がございました。

続けたほうがいいですか。

○委員長（八尋一男君） その内容のとおりだと思いますが、この執行部の概要提案を受

けて、そして皆様方からいろんな質問を受けました。それを事務局のほうで一つ一つまとめてもらっております。それについてですね、この委員会の意見という形で皆様からお聞きをしたい。そして、最終的に意見書で取り上げたい。執行部の意見だったら、これはこれでよからうというところであれば、それはそれで流していきたいと思いますが、かいつまんで事務局のほうからまとめた内容を報告してください。

○議会事務局主査（森 敬君） 当時、執行部からの説明を受けまして、議員の皆様方から質疑が出ております。

2 ページから12ページまでにわたっておりますが、まず、筑紫、筑紫南、山家の方は1月からデマンドバスが運行されているが、混雑する時間帯について増便する予定はないのかということで、令和9年度以降の検討課題に、運行エリアやミーティングポイントの妥当性について検証をすると。運行時間、こういったものを長くするためには、運転手の確保がセットになって考えないといけないので、実現できるかどうかを研究、調整する必要があるという答弁でございました。

それから、ミーティングポイントをどこにするかについて、利用する高齢者の意見を聞いてほしいという意見がございまして、ミーティングポイントを設置するに当たっては、基本的にはコミュニティの役員や自治会長さんを中心にもろもろ検討をしていきたいということで、具体的には、より多くの皆さんの意見を吸い上げれる方法を協議していきたいということですが、ミーティングポイントとバス停が同じような、いわゆるそこに書いてますように同類になることから、交差点から何メートル離さなければならないとか、そういった基準があるので、団地内には設置しにくいという事情があるところを御理解いただきたいという答弁がございました。

それから、3 ページ目でございますが、むさしヶ丘から市長に対して要望書が提出されていると。この特別委員会は、住民要望を取り上げて事業の検討に加えていくということが役割として果たせるようにしなければならない。委員会で先進事例を勉強し合って、次の事業展開に反映することができると思うというような御意見をいただいております。

それから次に、予約をしたくても、例えば2 日前に予約をしても、その時間が取れないというふうに言われていると。1 週間前から取らないといけないのかというような質問がありまして、予約が取りづらいということについては、午前・午後の特定の時間、特に運転手のシフトの交代の時間等に予約が取りづらい時間帯というのが、そういった実情があります。予約が取りづらい時間帯についても、市民の皆さんにお示しできるような方法を

検討していきたいと。現状としては、朝の10時半前後がどうしても運転手のシフトの関係で予約が取りづらい傾向があるということから、その時間を避けていただくと比較的にスムーズに予約ができるのではないかと考えているというような答弁がございました。

それから、4ページです。デマンド運行のエリアを取り払って運行したほうが効率が上がるのではないかとというような御質問でございました。デマンド交通の現状については、運行距離が伸びると、どうしても1日に乗車していただける人数に限りがあると。そういった場合は、できるだけデマンド交通で近く交通結節点まで利用していただいて、遠距離の移動については乗換えをしていただきたいと。それが地域公共交通全体を見たときに最適化が図れるのではないかとというふうに考えていると。それから、エリアをまたいだ移動もできないことはないけれども、最終的には1台1台の移動に時間が非常にかかるようになる。そのため、1日に乗れる枠そのものが見込みづらくなるという傾向が出てくるのではないかとというふうに考えているというような答弁でございました。

それから、のる一とを運行したためにバスが減便になったのかということについて、例として、南ヶ丘線については、市としてはデマンド交通がまだ運行していない地域があるけれども、西鉄が運転手不足を理由として減便、デマンドのあるなしにかかわらず、乗る人がいないから便数を減らす減便というところで、そういうことをやっている状況であると。一方で、南ヶ丘線以外に代替となるような交通手段政策が今のところ何も講じられていないという状況があるために、この6時間を埋めるための政策が必要ではないかと執行部としては考えているというような答弁がありました。

それから、5ページです。山口、むさしヶ丘地域のバスの減便に関し、何ら事前の連絡がなかったのかというような質問がありまして、西鉄からは市に対して、山家の上西山線、筑紫野線、そして南ヶ丘線については、事前に減便をするかもしれないという路線の廃止、一部区間の廃止の申出というものがなされていたけれども、山口、むさしヶ丘地域の路線の減便に関しては、事前の申出が全くなかったということで、その申出がなかった件については、県とこの状況を共有しながら、交通事業者の方に指導を行っていただいているということでございます。

それから、山家、筑紫、筑紫南は定期便があるけれども、山口だけないのはどうしてかと。山口地域については、朝と夕方時間帯では、通勤通学で多くの皆さんが利用する西鉄バスが運行をしていると。そのために定期便は不要ではないかと。一方、筑紫、筑紫南、それから山家については、朝夕のバスが完全に二つの路線を廃止しているということから、

通勤通学需要に応えるためには、一定時間を決めて鉄道にアクセスするための路線というものが必要ではないかというふうに考えた。山口地域で定期便を走らせるときに、どこからどこまで走らせるのかということなど、整理しなければならない課題は多いというような答弁でございました。

それから、6ページです。10時半ぐらい、山口とかむさしヶ丘の山口方面の人たちは、少し時間をずらして27人乗りのバスを定期便で使うとか検討ができないかという質問でございましたが、このやり方についても、混雑緩和のための方策になり得る可能性はあるけれども、新しいバスを同じ時間帯に走らせると、どうしても運転手がもう一人必要になると。それから、大きなバスを使うと、デマンドは小型の普通自動車を使っているために、住宅のそばまで入り込むことができなくなるということで、小回りが利かなくなるということで、今後の実現可能性も含めて意見として賜りたいというような答弁でございました。

それから、今年度のスケジュールの中に時間帯分析というのを入れるべきではないかと。冒頭の令和8年度のスケジュールに対してでございますが、現在運行しているデマンド交通の運行実績については、9月の議会で予定をされている決算審査特別委員会で何がしかの実績はしっかり報告をさせていただきたいということでございましたが、7ページ、次のところで、これに対して、この委員会は決算委員会の中につくられた委員会ではないんだと。何のために特別委員会をつくったのか。これからの公共交通の在り方をみんなで議論していきたいと思っている。執行部もそのつもりでやっていただきたいというような御意見でございました。

執行部のほうとしては、少し誤解を招いたということで申し訳ございませんでしたと。9月の定例会に向けては、執行部としても7年度の実績、決算、こういったものをまとめていくので、それがまとまり次第、特別委員会、そして金額、決算額等については決算審査特別委員会のほうにお諮りをしたいと。また、実績についてはできるだけ早い時期にまとめたいという考えでございますが、筑紫地域の西鉄バスの路線廃止によって、市民の皆さんの利用動態も非常に大きく変わっていることから、路線廃止後の実績をある程度収集した上で、整理をしてお諮りをする必要があるというふうに考えているという答弁でございました。

それから、山口地域は7時半からのる一とに乗れるのに対して、美しが丘地区の人は通勤の時間、7時台に定期便があるため、9時からしか予約ができない。これは、そのために9時に市役所に行きたくてもそれができないというような内容でございました。山口地

域は、7時半から8時過ぎぐらいまでの間で遠距離通学の対象児童さん、こういった方がおられるので、朝の早い時間帯については、その通学を優先して運行をさせていただいているというような答弁でございました。

それから、8ページです。筑紫南地域で車両を増やすなどして、朝の時間帯、デマンドを運行することができないかという御提案だったかと思いますが、技術的には可能であると考えているが、先ほどから出ておりますが、運転手を確保できるかどうか、また、そのために人件費を上げるということになると、委託料をどこまで負担できるかという、そういった検証が必要になってくるというような答弁でした。

また、混み合ってる時間帯にほかのエリアのバスが乗り入れるということは考えられないのかと。これについても、技術的には可能であるというふうには思うけれども、現状はどのエリアも混み合う時間帯がおおよそ似ているということから、ある一つのところだけがですね、その時間混んでいるという状況ではないことから、直ちにそのような手法を取り入れるのは少し難しいというようなことでした。

9ページです。病院に行く際の調整などをコーディネーターみたいな人がやることができないのかと。それに対して、どなたがどの病院に何時に予約してというところまで聞き取らないといけないようになってしまう。実現するためには様々なハードルがあるということから、この件については御意見として賜って、ほかの先進事例を研究させていただきたいというようなことでした。

それから、のるーとのバスの中に、乗った人の声を聞ける、例えば意見を書き込む用紙など、こういったものを置いてはどうかというようなお話でしたけれども、車内にアンケート用紙を置くなどは現在やってないけれども、のるーとのLINE上で、利用された皆さんからの御意見を募る機能を設けていると。ただ、LINEを使えない方については、今後検討していきたいというような話でございました。

それから、10ページになります。現在、二日市地域から山口地域のほうには……。

○委員（山本加奈子君） これ間違いじゃないですか。二日市から二日市じゃないですか。二日市から山口は行けないので。

○議会事務局主査（森 敬君） そうでしたかね。

そういった乗れるような検討ができないのかということでしたけども、今回、デマンド交通の充実、デマンド交通のエリア拡充等検討はするけれども、一つは、南ヶ丘線沿線地域を中心として交通不便地域の状態などをピックアップして、できるだけカバーできるよ

うな形で検討を進めていきたいということでございました。

それから、山口地域におけるデマンド交通の取組をその後の地域にどう生かしていくのかということで、山口地域が初めてこのデマンド交通を運行させたということで、ここにもる書いてありますけれども、いろんなことが検証できて非常に大きな成果が上がったと。特に山口地域では、住宅地に隣接する地域まできめ細やかにデマンド運行ができたけれども、そのときのノウハウについて、筑紫、筑紫南ですとか、山間地域でミーティングポイントを設定する際に大変参考になったと。ノウハウに生きているということでした。

令和8年度のスケジュールでは、最低限どういうステップを踏まなければならないのかというところも山口の知見から導いてきたということから、山口地域での経験や運行実績がほかの地域に展開する際の大きな材料になっているというところは、非常に重要な取組であったというふうに考えているというようなことでした。

それから、11ページです。既存の交通事業者からのネガティブな反応、仕事を奪われるというような声があったのではないかというふうに思うけれども、そういう声があったにもかかわらず、今年度はあえてそれを乗り越えていくという理解でいいのかというような御質問でございました。

民間事業者との競合関係というのはしっかり整理をしていかなければならないけれども、南ヶ丘線では昼間6時間はバスが運行しない時間があるということから、市民の皆さんの移動を支える交通手段としては十分と言えないのではないかと。そういう市民の皆さんの移動手段を確保するという観点から、今年度は二日市地域でバスのデマンド交通の運行を検討すべきであるというふうに判断をした。ただ、民間事業者、タクシー事業者等々の協議、調整というものは当然必要であるから、その件についてはしっかり整理をしていきたいというような答弁でございました。

それから、山口地区や他地区でお客さんを乗せて実績として上がっているけれども、マッチングができなかったと。要望したけれども、そのとおりの時間ではなかったから最終的にはもう諦めたという声を何らかで拾い上げるすべというのではないのかということで、技術的に実現可能かどうかということも含めて、今後、調査研究を行いたいということでした。

それから、最後のページになりますが、この事業は、ほかの事業とは違って、利益を生み出さなければならないと。そのためには、今後さらなる利用者を確保していかなければならない。こういったことに対してのPRや情報発信というのはできないのかということ

で、ホームページですとか広報紙、市のほうにはいろいろツイッターとかそういった媒体があるので、より多くの皆さんに公共交通に関心を持っていただけるような手段を引き続き検討させていただきたいということでした。

それから最後に、南、いわゆる筑紫南のほうだと思いますが、南のほうからは生涯学習センターや図書館には行けない。そのことは乗る機会を失っている方がすごく多いんじゃないかと。その辺りのニーズ調査をしていただきたいというふうに思うが、どうでしょうかということで、ニーズの調査等については機会を捉えて行きたいと。ただ、どうしてもデマンド交通を運行する距離が長くなると運行効率が低下をするという課題もあるために、市民の皆さんのニーズと運行形態の最適化という両面から研究をする必要があるんじゃないかというような答弁でございました。

以上です。

○委員長（八尋一男君） ありがとうございます。

今、森さんのほうから読み上げていただきましたけど、これが大体皆さんから出された意見を集約しているというふうに思います。それで、1ページに戻っていただいて、執行部の回答がこれでいいならいい、いや、もう少しこの意見をしっかりと述べて意見書として取り上げてほしいというようなことがあればですね、この委員会の意見という形で書き込みをしていきたいというふうに思いますので、1ページのほうに戻っていただきたいと思います。いいですかね。

筑紫、筑紫南、山家の方は1月からデマンドバスが運行されているが、混雑する時間帯について増便する予定はということについて、執行部からこのような回答がっております。

乗られた方は分かると思うんですけど、あそこにはですね、10時と13時と15時、運転手交代のため混雑しますというのがあそこには書いてあります。バスの中にね。というような形ですから、初めからそのところは混雑するんですよということをあのバスの中で言ってるんですけど、だったら、それをもっと改善する方法はないのかというのが皆さんの意見だろうと思うんですけど。そしたら、1名増やしてでもというのはね、1名増やして幾らかかるんですかといったら、全体に及ぼす影響というのはそれほどでもないと思うし、そしたら、混雑する時間帯の予約や受付はできるでしょうけど、バスは走らせることができないかもしれない。バスを2台にしないとねというような形は出てくるかもしれません。

どうぞ。

○委員（山本加奈子君） すいません、私が理解してないのかもしれない。これを、今、森さんが読み上げていただいた内容を執行部に提案として出すという話のことですか。

○委員長（八尋一男君） いえいえ、今読み上げた内容は執行部から回答がありましたから、その回答で皆さんいいんですかと。

○委員（山本加奈子君） 納得してますかという……。

○委員長（八尋一男君） この回答じゃ、やっぱり駄目よと。もう少し何か私たちの要望をしっかりと聞いてよということがあれば、ここに私たちの意見、委員会の意見として追加したい。

○委員（山本加奈子君） じゃ、委員会の意見として追加するということですね。

○委員長（八尋一男君） はい、そういうことです。

○委員（山本加奈子君） 分かりました。ありがとうございます。

○委員長（八尋一男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） この今扱ってる一番最初の意見ですけど、答弁としては、実現できるかどうかを研究、調整が必要となってるでしょう。だから、今は回答が出ないわけですね。そしたら、それを私たちがどう受け止めるのかというのがあるような気がするんですよ。例えば、今年度中にこうしますというようなのが出るんだったらそれでいいけど、これがいつまでもずっと研究、調整というのをされるのかによって私たちの考え方が変わるのかなと思うんですけど、その辺りはどんなふうに考えたらいいんですか。

○委員長（八尋一男君） いや、私どもは9年度以降までは待つことができません。8年度にぜひともやってほしいというのが我々の希望じゃないですかね。

○委員（西村和子君） それでいいですか。そしたら、いつ頃になるんですかね。

○委員長（八尋一男君） いや、それは要望として出すんですから、それは、僕は執行部でもありませんし、いつ頃になるんですかというのはないから、今度の8月の執行部との委員会の中で、そういう形で我々としては意見として要望しますよという形でもっていきたいなと。

○委員（西村和子君） 分かりました。

○委員長（八尋一男君） だから、西村委員としては、9年度以降の検討課題じゃ遅いですよと。だから、8年度にぜひとも何らかの解決策を取っていただきたいというのが……。
どうぞ。

○委員（西村和子君） 出した質問なりには少なくともこちらが要望を出す期間において答弁いただかないと、私たちは結論出せないということですよね。というふうに思います。だから、そこを例えば、12月議会ぐらいが締めとか何かしないと、3月までには委員会としてまとめができないんじゃないかと思うんですよ。そこを少し考えないかんのかなと。

○委員長（八尋一男君） だから、それを行くと、12月ぐらいまでに回答をいただきたいとか、そういう形に行くべきでしょうね。（「私もそういうふうに思います」と呼ぶ者あり）

上村委員。

○委員（上村和男君） 市としては、計画が令和10年度までの5か年計画の中で、こののーとの運行だとかその他も含めて考えてるんでしょ。そういうことの中で起こっている現状とそこでの課題とかいうのを整理しないと、この委員会で何を議論するのかというのが、とても曖昧なことになりはしないかと思ってますが。

今やってるからこれをああせいいこうせいと言うなら、特別委員会じゃなくて常任委員会でやりゃいいと思いますよ、所管のところで。私は、特別委員会をつくったというのは、公共交通の計画自身はどうあるべきかということを議論するところじゃないんですか。そして、中長期にわたる状況を把握した上でどうすべきではないかというのを提言するというのは分かりますけども、一々今あることについてああだこうだというのは特別委員会をつくってわざわざやるようなことでもないんで、私は特別委員会というのは、この計画自身をどうあるべきというふうに言うのかなと思って、この特別委員会は役割があると思ってますが。

もう少し構えて議論をしないと、気をつけないと、その時々の方々の市民の要望を基礎にすることは重要なことですが、筑紫野市の公共交通の将来展望はどこで議論してるんですかと、筑紫野市議会はね。私は、この特別委員会がそれを議論して、令和10年までのこの計画だと、今の進捗状況や実情からすると課題があるというふうに整理をして、次の計画はこういうふうにするべきではないかというのを少なくともここが出さないと、日々のことだったら普通の常任委員会でも私はできるような気がしてるんですけど、違いますかね。

特別委員会の役割みたいなのをもう一度きちっと委員長、副委員長の下で整頓していただいたほうがやりやすいかもしれないなと思ってますが、どうなんですか。みんなは何を議論するところだと思って特別委員会に参加されてるのかな。私は、このままだと常任委員会にやってもらったほうが早いんじゃないのという気はするんですけど。私たち自身が長

期の公共交通の在り方を研究調査して、今の現状からこういうことが課題だというふうに執行部に提起するような役割があるのかなと思って特別委員会に参加してるもんですから、少しどうなのかなと。

日々のことも、それは議論してもいいんですけど、最終的にやっぱり計画自身をどうするのかという、あるいは、令和10年までの計画ですから、次の計画をどうするつもりかというね、明らかにしてもらわないと、執行部がどうしようとしてるかも分からないままね、わあわあわあ言ったって、ただわあわあなるだけという話になりかねないので、心配をします。

○委員長（八尋一男君） 意見はそういうことはあるでしょうけど、ほかに皆さんからありますか。

それは協議会のときに、この目的はという形で皆さんと討議をしたつもりでございます。そして、10年までの計画の中で内容を検証していきましょうという形での目的がありました。そして、執行部が計画してることについて、我々としては、それについて意見を持っていましょうという形で、この10年までの計画について我々が口を挟んでどうのこうのというよりも、10年までの計画についていかがなものかという形で意見を出せるもんやったら出していましょうというような形で、第1回目のときに会合をしたと思います。それが皆さんとの合意形成を図ったつもりでございます。それは前の第1回目のときの内容を見ていただければ、そういう形で話をさせていただいたというふうに思います。

だから、問題は、今執行部が進めようとしとることについてブレーキをかける問題でもありません。ただ、それは執行部が進めようとしとるだけで、それだけでいいのですかと。もしこういうことで我々として代替案が出せるんやったら代替案を出して、そして、それを反映してもらったらいかがでしょうかというのがこの委員会だと私は思ってます。例えば、10時半前後に予約が取れない。そうすると、何を代替案として出せるのかなというのと、例えば、乗り合いタクシーを導入したらいかがでしょうかね。そうすると、デマンドバスとは関係なく、タクシー業者も利益を得ることできるわけですから、それじゃ、10時前後のときには乗り合いタクシーを導入されたらいかがでしょうかと。そういうのを我々としては意見を出すことじゃないかなというふうに私は思ってます。

どうぞ、上村委員。

○委員（上村和男君） これ、5か年計画の進捗状況をきちっと把握しとかないといけませんでしょう、まず。

○委員長（八尋一男君）　そうです。

○委員（上村和男君）　それで、今起こってることであだこうだと言うならば、それは特別委員会でも、特別委員会でやってもいいですが、ここで気づいたこととして言うのはいいですけど、長期にわたって公共交通の筑紫野市の在り方をするというならば、計画自身をどういうものにすべきだというふうにしないと、私は何を議論してんのかなというね。常任委員会でやれよ、そんなことはというね。

○委員長（八尋一男君）　いや、10年までの交通計画はもうできとりますよね。これを我々としてどうのこうのするということはもうできないわけ。皆さんがこれを承認したわけですから。要は、これについて進もうとしとる形について、我々としてはこれに対して意見を、この方向だけでいいのか、もしプラスアルファの意見が出せるんやったら意見を出したらいかがでしょうかというのが、この特別委員会の役目だと私は思っております。

○委員（上村和男君）　この5か年計画に、次に来る計画をきちっとすべきだというのが大事な役目じゃないんですか。これをちゃんとさせるために、これは特別委員会をやられてるんですか。

○委員長（八尋一男君）　はい、私はそう理解しております。令和10年度までのこれをいかに効率よく、そして……。

○委員（上村和男君）　そしたら、委員長が言われるように、もう決まったやつだから、ここでせんでもいいやないですか。決まったやつにどうこう変えられないというなら、常任委員会でやりゃいいじゃないですか。出てきた意見をそこでして、特別委員会をわざわざやるというのは、よそまで行って調べるといのは、計画自身を次はこうすべきではありませんかというのを提起するんじゃないんですか。

○委員長（八尋一男君）　いや、皆さんどうですかね。

○委員（西村和子君）　10年度までですよ。だから、11年度からの計画は、その前の年度に考えると。だから、10年度に……。

○委員長（八尋一男君）　そうですね。まず、のる一とが本当にこのまま走っていったいんですかねということも、しっかりと僕は議論せないかんと思うとるんですよ。全てがのる一とでいいということと思うんじゃないくて、そしたら、それを踏まえて、次、それは令和9年の3月のときに、こういうことが次の課題としてあるんじゃないでしょうかという形を言ったらいいんじゃないかなと、こう思ってますから。まずは、今ののる一と、今度二日市線を入れようとするんやったら、それを我々としては、こういうことも加味して

もらって、してもらったほうがいいんじゃないでしょうかということと言えるんじゃないかなと。

○委員（山本加奈子君） 特別委員会のスケジュール感が見えないので、私の中で今、頭の整理がつかないんですけど、最初この特別委員会をすることになったとき、アンケートみたいなのを取りましたよね、みんなの。どういう優先順位みたいな。あそこに書いたことは、私、この間言っていなかったりしてるんですよ。でも、今出てきたこの資料というのは、あくまでも前回に言った意見だけが集約されてて、前にアンケートを取った内容とか、協議会で言った内容とかは反映されてないんですね。じゃあ、この間の委員会のときに全部言っとかないかんやっただろうねと今少し思ったんですよ。

というのが、割引が必要じゃないかとか、高齢者の割引であったり、常時乗る人、いつも通勤通学で行く人たちが大体どれぐらいで、その人たちは割引が必要じゃないかとか、あと、二日市地域はあくまでも二日市小から天拝小校区に行くところの話で、二日市北小校区の人たちは対象になるのかならんのかがいま一つ分かってなくて、そういうのも全然したいけど、この間言った内容でどんどん話が進んでいくんだったら、言っとかないかないけなかったのかなと。今、頭が……、どんなふうにして、スケジュール感、じゃあ、いつ提言する予定でとかというのが見えないので、その辺を教えていただければなというふうに思いました。もうこの間出た意見だけで進んでいくんですかね。

○委員長（八尋一男君） いやいや、だから、この12ページまでのやつを皆さんから意見を出してもらって、それ以外に追加項目はないですかねという形を僕としてはしたいなと思ってましたね。

○委員（山本加奈子君） 追加項目ね。そこで言えばいいわけですね。

○委員長（八尋一男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） それはそこで分かりました。だけど、上村委員は、計画のところの検証と、それと次の計画について検討しなければという、今、大きく二つ問題が、分野というか、分かれてると思うんですけど、両方していかないかんだろうと。しかし、今年度は、11年度からの計画をどうするかということはまだ少し早いかなと。今見直してる計画に沿って、実態がどうなって、もっと実態から出てきた問題点を解決してって、それを基に最終年度で次の計画を検討するということになるんじゃないかなと私はイメージしてるんですけど、そこら辺を整理しとかないと、みんな共通のこの場面で意見が言いにくいかなと思うんですけど、その整理が……。

○委員長（八尋一男君） だから、そのためには、皆さんが今疑問に思っていること、これを今皆さんから出してもらって、そして、それをちゃんとして意見書として出していきたいと思います。それが次の9年度に生かされていくだろうなというようなことじゃないかなと。

○委員（上村和男君） 行政自身はどうしようとしてるというふうに思っておられますか。令和10年度までの計画で、筑紫野市の公共交通の姿をこういうふうにしようというふうに一応描いてあるんですよ。それに向かってどこまで来ている、あるいは何が問題になっている、何が課題になっている。だから、どういうふうに移行をしていくのかと。私は、令和9年度、来年はまだしも、9年度ですか、来年ですか。

○委員長（八尋一男君） はい。

○委員（上村和男君） 来年にはもう審議会が立ち上がらないと、次の計画がつかれないというふうに思っていますので、そういうふうに進んでいくんだろと思うんですよ。そうすると、特別委員会は、その審議会に対して、やっぱりこういうことが課題ではないかとか提起するぐらいのことが必要なんで、今、こうだあだというの、もちろん現状としてみんなで議論していいんですけども、そこに表れている5か年計画の問題点とか課題とか、あるいは、そこを見直すとすればこういう点をきっちりととれないといけないとか、そういうふうなことを特別委員会は議論が必要なこととして私はあるというふうに思っていますので、現状についてのやつは、それはそれで出てきたやつで構いませんけども、これを主にするような委員会では私はないというふうに思っているんですが、委員長がそうじゃないと言われれば構いませんけども。

○委員長（八尋一男君） いや、上村委員と僕は同じ方向には向いと思うんです。じゃあ、のーとで9年度にするとときに「課題は何ですかね」と言われたときに、それは皆さんから出された内容をベースに、こういうことが課題じゃないでしょうかと言うためには、これをクリアしないと、「課題は何でしょうかね」と言われても、「さあ」としか言いようがないんじゃないかと。

○委員（上村和男君） 5か年計画の中にどう描かれてるかというのが最初にあって、それによって今の実情や我々が見る課題だとかいろいろ出てきてる要望だとかを重ね合わせると、こここのところが問題ですねというふうに、次の計画をつくる時に必要な問題点、あるいは課題として整理をしていくことが大事なんじゃないかと。

差し当たっての問題を解決するようなことも議論して構いませんけれども、それよりも

やっぱり、じゃあ、令和10年で終わる計画で、計画したとおりのことが出来上がらないかもしれないというね。出来上がるかもしれない。それはどうなってますかという。上村さん、あんたも計画に賛成したんでしょうと。賛成したかどうか定かではないんですけども、予算には賛成してますから、きっと、賛成してるんだと思いますが。そのときの計画で示された中身と現状とどこか乖離がありますかと。そこが計画どおりこうなってますというならば、そのとおり進めば公共交通として体裁は整う可能性があるんですよ。どうもそうになっていきそうにないなというふうに思えるところがあるので。

困難さをみんな抱えてるんですね。執行部自身も抱えてると思いますよ。思った以上に経費がかかってますよ。思った以上に運転手が足りないですよ。思った以上にそんなに容易ではないんです、のる一との運営も、経営も。と私はと思いますが、そういう意味で、やっぱり計画自身が破綻してるとは言いませんが、この計画でいってできるのかということとはきちっとしとかなないと、じゃあ、どこを見直す必要があるのかという長い目で筑紫野市の公共交通の在り方を議論しないと、ここでやらないと、議会はそのために特別委員会をつくったと思ってますので。

普通の市民要望を取り上げてやるというのもいいですけど、ここで取り上げるのは、やっぱりそういう要望を基礎にしながら、次の計画はどうあるべきかというふうにつないでいくことが私は大事だなというふうに思ってますので。そうしないと、特別委員会をつくって議会で議論をして、皆さんの意見を、要望を反映しましたと。結果どうになりましたかという話になりかねないので、私はそんなふうに思ってます。もう少し計画自身がよかったか悪かったか、あるいは、これで進むとか進まないとかいうのをきちっと見ておかないとどうかなというふうに思いますが。

やっぱり令和10年、5か年計画の中で公共交通をね、どうするというのは結構無理もあったと思うんですよ。運転手不足の中で、路線が廃止されてる中で、追い立てられてつくったかもしれないんですよ。そうすると、厳しいですよ、これは。そして、ちぐはぐですよ、やっтерことが。そう思いませんか。片一方でカミーリヤバスが走ったり何が走ったり、で、のる一とが走り始めてるという、そういうちぐはぐな、ばらばらなように中で筑紫野市の公共交通というのがあるんで、事業者の人たちの意見も含めて、きちっと整頓していくようなときが今来てると思いますけどね。私はそんなのが大事だなと思いますので、あとは委員長が思われるとおりに、私と方向が一致しているとすれば、それでよいので、進めていただければいいと思います。

○委員長（八尋一男君）　ありがとうございました。

私どもも、執行部が計画してる5か年計画に対してブレーキを踏むつもりもありません。ブレーキを踏むんじゃなくて、もっとこういうことをしたら、アクセルが踏まれてもっといいものになるんじゃないかと。そのためには、今現在の課題は何かということをしかりとベースの段階で踏まえておかないと、そして、その課題を次に提案することによって次の計画に生かしていただけるという形で皆様から意見を頂戴したいという形で、少しだけ僕は先走りしたけど、西村委員が言われたように、それを駄目だったら今年度やってよというのは、少し乱暴過ぎたかもしれません。だけど、それはそれで、課題としてしっかりと取り上げてくださということはあるんじゃないかなというふうに思います。そんな形でいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

西村委員。

○委員（西村和子君）　少し整理したほうがいいかなと思うんですけど、上村議員がおっしゃってることももっともだと思うんですね。今、前回と今回、のる一との課題についてに集中してるんですけど、私、1回目出席してないんで整理ができてないところがあるんだけど、要するに、今、公共交通といったら、西鉄バスと、それからタクシーもあるし、今言われたように、のる一とが発展してカミーリヤバスが廃止になってるところもある、コミバスもある、そして、のる一とということでしょう。今、のる一とに集中し過ぎてるんじゃないかと。言い換えればね、そういうことを言われてる向きもあると思うんで、それはごもっともだなと思うんですよ。なので、バランスよくそこを全体見ていかないと、今の計画に沿って進捗しているのかという委員会としての確認がおろそかになるのではないかなというふうに私は受け止めたんですけど、そこをどうするかというのは、もう一度ここで確認したほうがいいんじゃないかなと。今、全体のここをやってますよということでもまとめてどうかなと思います。

○委員長（八尋一男君）　古賀委員。

○委員（古賀新悟君）　上村委員が言ってることはよく分かるんです。第1回の協議会のときに確認ということで、特別委員会の目的と立ち上げの理由というのを確認してるんですね。それには、やっぱり今の計画の進捗状況を中間段階で確認するというのが冒頭にきて、中ほどで、計画期間後、10年以降ですね、の将来像を見据えた検討をここで行うということをおし合わせてるんですよ。それを考えるとですね、今、西村委員が言ったみたいに、地域公共交通網全体をここはね、整理していかないかんのかなという気がしたので、

のる一との今の状況とかということも大事だけでも、やっぱり全体を見ていくということ
が大事なのかなという気がしておりますので、そういう整理の仕方をしてほしいと思っ
ます。

○委員長（八尋一男君） 西村委員が言われたのは分かるんですけど、執行部としては、
8年度は、まずはのる一とを二日市にしてね、それでもう展開していきましょと。あれ
もこれもあれもこれもとこの時点で言われると、執行部としてはそこまでは手が回りませ
んのという形で、二つあって、一つは、コミュニティバスの右回り左回りをやりましょ
うというのが一つですね。そして、福祉バスは、今現在ののる一とが走ってるところにつ
いては廃止をしていきましょという形で、北と南は走らせるという形でやっていきま
しょという形ですから、今の、まずはここでやろうとするのる一とを、これが全体的に
もう、市としてはのる一とを筑紫野市全体に展開していこうとしとるわけですから、それ
についての課題をまずせないかんと。それは古賀委員が言われたように、途中段階での検
証をうまく、今、検証をせないかんわけですから、今時点で何をやりよるかという、の
る一との検証をしてるようなものでありますよね。という形で、さっき……。

○委員（上村和男君） じゃあ、私が委員長に聞きますから。今、のる一とを動かしてい
きよる最中ですが、5か年計画、令和10年までの計画で、この配備といろんなほかの
公共交通を廃止したりしてるようなことは、計画の中のどこら辺りまで来てるというふう
に見てるんですか。計画の中にそれがありますか。

○委員長（八尋一男君） 廃止するとかいうのは、具体的にはないですね。ひょっとした
ら福祉バスは廃止の方向になるかもしれませんが、どれがどうやと言われたら分かりま
せんが、ここの中にありましたよね、一覧表の中に。

○委員（上村和男君） 私は、委員長はよく御存じですけど、私たちが知らんことがずっ
と進むのかなという心配もしてるもので、この際ですから、ちゃんとここに出してくださ
い。この計画に基づいてどういうことが進行してて、どういうことが執行部でやられてる
と。材料を全部出してもらわないと。

○委員長（八尋一男君） 赤司委員。

○委員（赤司泰一君） 今回の特別委員会の立ち上げた理由は、今、森さんのほうからも
出てきたと思うんですけど、実は4月の24日の委員会、協議会の中でもですね、今後の地
域公共交通の目的であったり、今、資料が出てきた進め方でもあったりと。何よりも気を
つけてほしいのは、問題意識の共有と優先順位とかも書いてるんです。うちらはちゃんと

アンケートを取ってやっとなんです。その中で、今からこの特別委員会を立ち上げる中で何を議論していくかということで、僕も前回の執行部を呼んで、何ですか、あれは何やったかいな。（「のる一と」と呼ぶ者あり）のる一と、のる一と。出てこんやった。のる一との話の中で、かなりすごい要望が出てきたというところで、これは多分委員長、副委員長もびっくりされたのかなというところもあったと思うんですけど、今回の場合は、それを課題整理の一つとして、のる一との問題をして、もちろんこの問題意識の共有と優先順位というのは、かなり今後の進め方に大きなところもあると思いますし、4月の8日にした部分というのは、そういう話の中で進めていくというのも一つの流れじゃないかなというふうに思ってます。

結局うちらが何を目指したかというのは、計画の中で地図があったでしょ、マップが。あれが完成形なんです。それにどうやって近づいていかせるのかというのが大事なことであって、その中で、今後の計画に当たって、それをするためにどういう議論をしていくかということで、今回、前回ののる一とで出た意見と、一部分的な問題だろうと思うんだけど、これは一つの課題として念頭に置いて、また全体的な計画の、何ですかね、検証というんですかね、につなげていくという話ではなかったんですかね。違いましたか。聞いてますか、委員長。

○委員長（八尋一男君） いやいや、もっともだと思いますよ。だから……。

○委員（赤司泰一君） だけん、うちらはちゃんとやっとなんですよ。今後のあれでから。

○委員長（八尋一男君） いや、今皆さんの手元に事務局から配信されましたけど、これが最終形なんですよね。

○委員（赤司泰一君） そうそうそう。地図が出てきたと思う。地図と全体図の。

○委員長（八尋一男君） 西村委員。

○委員（西村和子君） 3月までと限られてるから、そこまでこの、何というか、タイムスケジュールみたいなのを少し考えたほうがいいのかも分からんなという気はするんですけど。ここでもう最終まとめをすとかですね。

○委員長（八尋一男君） はい。

○委員（山本加奈子君） 4月の委員会の進め方とあるじゃないですか。これにのっとしてしてるということでいいんですよね。ということは、今、6月から9月。4月から5月が現状把握と問題意識の共有。次、6月から9月が改善案の検討。これはデマンド、コミュニティ、御笠自治会バスの改善案とか空白地域のこと、乗り合い、コミュニティバス、

自動運転。3、4、5まであるじゃないですか。10月、11月で要望書の作成。12月に定例本会議で報告となってるから、今、6月から9月の改善案の検討のところで……、のる一とのことしかこの間出なかったから、そこが今度、デマンドとかコミュニティバスとか御笠自治会バスの改善案も出さないかんということですよ。

○委員長（八尋一男君）　そうですね。だけど、一気にそれをやると皆さん方の意見がばらばらになるから、まずはのる一とを入れましょうということやから、のる一との意見をまずはまとめたいと。

○委員（山本加奈子君）　のる一だけをまとめましょうということなんですね。その辺を先に言ってくれたらよかったのに。

○委員（赤司泰一君）　ただ、のる一とはずっと現在進行形だから、そこら辺は進め方の中で報告とかそういうのがあっていいのかなと。だから、今回の課題整理は物すごく重要だと思いますよ。今、施行されてから結構時間もたってきたんだけど、今後の展開を、それはそれでチェックして、今言うたように、進め方というのはきちんと決められとるし、問題意識の共有とか優先順位とかも、一度うちらでアンケートを取ってやってますので、そこはもう1回再認識してもらってから、今後の審議、運営で共有してもらおうということですかね。それで、結果的に何か一つの、3月ぐらいには出てくるでしょ。まだ提言になって……。

○委員長（八尋一男君）　3月でね。

○委員（赤司泰一君）　また課題抽出という、これをやっぱり次につなげていくことが大事でという話で。

○委員（西村和子君）　これは12月になってるけど、3月までね。

○委員（赤司泰一君）　12月……、ごめんなさい、12月でもいいです。予算につなげないかんけん。

○委員長（八尋一男君）　そうそう、予算に反映するためには12月で一応ね。

○委員（西村和子君）　12月じゃないといけないのね。

○委員（赤司泰一君）　だから、ボリュームとしては結構濃いんですよ。だから、もしかしたら6月は今回1回だけやったかもしれんけど、9月、あるいは8月とか。だから、今度視察に行つてという形で、段階的な、建設的な運営を委員長とか副委員長が立ててると思ってますので、今回は、取りあえず前回のライドシェア、何でライドシェアと言うっちゃうらうか。今はそれに特化してまとめていただいたらいいんじゃないですかね、委員長

が言われたように。

○委員長（八尋一男君） という形で、もう予定の時間を過ぎてしまいました。どうしましょう。もう予定の時間があるんで、皆さんがこれで終わってくれと言うんだったら、宿題にして、そこの委員会の意見のところを書いてもらって出してもらおう方法もあろうかと思えます。

○委員（上村和男君） 委員長、副委員長で話し合って、まとめて提案してくれるかすると議論しやすいですね。みんなで書き込めというともた……。

○委員長（八尋一男君） 大体皆さんの言われたことは頭の中に入っておりますから代筆はできますけど、これは俺の思いじゃなかったという人もあるかもしれんけど、まあ……。

○委員（上村和男君） いや、それはもう。委員長、副委員長でよく話し合ってまとめていただければ、委員長、副委員長はみんなで決めたんだから。こういうまとめはどうですかと。

○委員（赤司泰一君） これ、まとまんよ、これ。だから、たたき台としてね、1回出してもらってから、それに対してまた。

○委員長（八尋一男君） 「そういう意見でよろしいでしょうか」と言ったら、みんな「うん」としか言わないので、分かりました、そのような方向でと。

○委員（上村和男君） いや、みんなの気持ちもそうなってますので、委員長、副委員長で頑張ってください。

○委員（赤司泰一君） ちなみに、今後の進行状況は物すごくポイントになると思うんで、それは出してもらったらすごくありがたい。

○委員長（八尋一男君） 副委員長、そういうことでよろしいですか。

○副委員長（吉村陽一君） はい。

○委員長（八尋一男君） じゃあ、この件はそういう形にしたいと思います。

もう一つ、行政視察について森さんからお願いします。

○議会事務局主査（森 敬君） ひょっとしたら日程的には初めて御覧になる方がいるかもしれませんが、今のところ、来月28日か30日のいずれかということで、佐賀県の武雄市のほうに共助版ライドシェアについての視察を行いたいというふうに考えてます。

これまでの経緯を説明させていただきますと、この共助版ライドシェアというのが、全国自治体ライドシェア連絡協議会というところが運営というか、企画運営をしております、そちらの事務局の方と話をしたところなんですけども、実際、武雄市のほうは、今、

この共助版ライドシェアというのは試行期間をもう終了していると。だから、現在はこれはやっていないということで、実際に走ってはいないということでした。

視察の申込みをするに当たって先方とやり取りをする中で、まず先方のほうから御紹介をいただいたのが長崎の雲仙市のほうだったんですけど、雲仙はとても日帰りで行けるところでもないかなというふうに思いまして。実際この共助版ライドシェアを1年ちょっと走らせたところでの成果あるいは課題、こういったものは、実際お話しはできますよというようなことでしたので、委員長ともお話しして、これは武雄市のほうがいいだろうというようなことで話をしたんですが、その事務局の方とお話をして、今のところ、先方ですね、事務局とは話を進めてるんですが、受入れをしていただける会場がないみたいで。

○委員（赤司泰一君） 少し微妙なんかもしれんね。

○議会事務局主査（森 敬君） その辺の会場の関係……。実は、これを始めた元武雄市長の樋渡さんのほうもですね、結構乗り気で。

○委員（赤司泰一君） エミカフェは使えんのか。

○議会事務局主査（森 敬君） これもお話ししようと思ったんですけど、午前中にですね、視察をした後に、向こうの方が言うには、エミカフェのほうでお昼を食べてお帰りいただければというような御提案をいただいております。

○委員（赤司泰一君） そこでできんとかいな。

○議会事務局主査（森 敬君） 今、事務局の方に受入れ、こういった会議室というか、会議をできる場所のほうを探していただいておりますので、一応28日か30日のいずれかということになりそうなので、その辺は時間を……。

○委員（赤司泰一君） 事務局って議会事務局ですか。

○議会事務局主査（森 敬君） いえ、この連絡協議会の事務局で、近藤憲治さん。

○委員長（八尋一男君） 近藤さん、私、知らんですけど。

○議会事務局主査（森 敬君） 事務局のほうはですね、いろいろ当たったんですけど、もうノータッチでお願いしたいということでした。

○委員（赤司泰一君） そうでしょう。けんかしてますもん。

○委員長（八尋一男君） いや、ありがたいことに、最新版の自動運転のお話もさせてほしいと言うとんやろ、樋渡さんが。

○議会事務局主査（森 敬君） はい。

○委員（赤司泰一君） 気づきとしては面白い。あの人はすごい知識豊富だから。ライド

シェアの全国区の会長さんだからね。上村委員、もしかしたらけんかするかもしれん。

○委員（上村和男君） あの人が市長のときから嫌いでした、僕は。彼がやった図書館も見に行きました。ろくなやつじゃないと思って。

○委員長（八尋一男君） その図書館ちゅうのは会議室はないんですか。

○委員（西村和子君） 市長が貸してくれないんですか。駄目だって言うんですか。

○委員（上村和男君） 市長、がちゃがちゃしとっとやろ。

○委員（赤司泰一君） 実物見れんっちゅうのはちょっとあればってんな。

○委員長（八尋一男君） じゃあ、結論はもう事務局からの回答待ちですか。

○議会事務局主査（森 敬君） そうですね。今のところ、28か30どちらでもいいでしょうという話で向こうのほうにお預けしてるので、しばらく預らせてくださいというようなお話でしたので、その辺の日程調整、樋渡さんも一緒に話をされるそうなので。

○委員長（八尋一男君） 行くとしたらマイクロバスですか。

○議会事務局主査（森 敬君） はい、一応マイクロバスを押さえてますので。両方とも押さえてますので。

○委員（上村和男君） 28日だと、俺、病院だから行けないんだよね。

○委員長（八尋一男君） あら、残念ですね。

○委員（山本加奈子君） 私も28は駄目です。

○委員（西村和子君） 私も駄目。30は行けます。7月28日は予定が入ってます。

○委員長（八尋一男君） はい、分かりました。

○委員（上村和男君） いや、行ったら、勉強に来ましたって黙っとくわ。

○委員長（八尋一男君） そげん仲がいいとですか。

○委員（上村和男君） 嫌いなの。あんないいかげんなやつはいねえよ。そういうことです。

○委員長（八尋一男君） じゃあ、それはまた回答待ちにしたいと思います。

それから、昨日の新聞ですけど、福岡市が高齢者乗車券増額へという形で、70歳以上の方たちについては無料のバスかタクシーか助成しますという形で、その予算が約20億2,000万円の予算が計上されとるというような形でね、我々としては桁が違いますけど、それを思うと、75歳以上ぐらいのカミーリヤに行く人は無償にせないかんのかなとかいうようなことも思ったりもしました。

○委員（赤司泰一君） いや、それでもアタックはあっていいと思いますよ、こちらから。

○委員（山本加奈子君） いや、やっぱり高齢者とね、子どもはね。

○委員長（八尋一男君） それから、山口の児童が通学しとるっちゃけど、あれも150円か何か払っとるという形だから、これも無料にならんのやろかねというのが山口の方から言われとることですね。だから、こういうことも次の議論の中でね。

○委員（西村和子君） もう平等寺の人、乗らんで言いよったよ。

○委員長（八尋一男君） ああ、そうね。

○委員（西村和子君） もう高校生は送っていきよると。

○委員長（八尋一男君） という形ですが、皆さんから何かございますか。

○委員（上村和男君） 特別委員会だと執行部は出てこないんですか。

○委員長（八尋一男君） いやいや、特別委員会でも執行部が出るのと出らんのはどちらでもいいそうです。今度は8月のときに執行部から出てきてもらって、そして、また皆さんとの意見交換をしたいなというふうに思っております。

○委員（上村和男君） 定例会議は。

○委員長（八尋一男君） 僕は全然そこは認識が違いました。上村委員と一緒にした。

○委員（赤司泰一君） 8月のその執行部が出るときに意見交換というと、やっぱりある程度目的みたいなのは、今回の……。

○委員長（八尋一男君） だから、先ほどまとめの内容とかね、あれを渡して、そして、それについて議論をしたいなというふうに思います。

西村委員。

○委員（西村和子君） すいません。さっきの意見のところで、一つ私言い方を間違っ、答弁か何か削除したほうがいいかなと。同じ意見が後で出てたので、一つ削除してもらったらどうかと思ったんですけど。もう一回送ってもらえませんか、さっきの。

○委員（上村和男君） もう一回委員長、副委員長でちゃんとまとめてから……。

○委員（西村和子君） 違う、削除する……。

○委員（上村和男君） 削除でも何でもそんとき出すけんが。

○委員長（八尋一男君） 後から。

○委員（西村和子君） 後から、はい。

○委員長（八尋一男君） これで本日の議題は終了いたしました。

これもちまして、地域公共交通に関する特別委員会を閉会をいたします。お疲れさまでございました。

閉会 午後 2 時16分